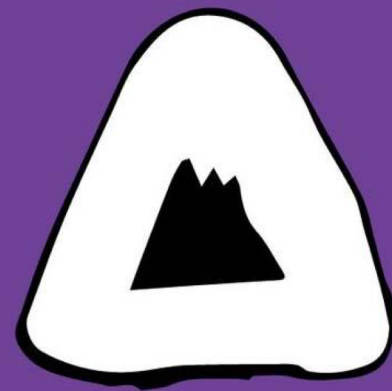


Anyアート・アジェンダ 2022



Anyアート

Anyアート

「かしわら芸術祭2023」に向けて

1 いかす・つながる・めぐるアート (理念戦略)

→かしわら芸術祭2021から更なる発展へ

① いかすアート

：資源・実績を活かす・生かす

② つながる

：アーティストと団体・グループとの関係強化

③ めぐるアート

：まちを知る：会場の回遊性を再考

2 パワーアップ (アクション戦略)

→弱点の明確化、機能強化と組織改善

① ブランド戦略の強化

：Anyアートをシンボリックに改善

② サポーター獲得対策

：Anyアートファンづくり

③ 運営体制の強化

：事務局の強化と有機的で柔軟な連携

V.05

1 いかす・つながる・めぐるアート（理念戦略）

→かしわら芸術祭2021から更なる発展へ

① いかすアート：資源・実績を活かす・生かす

- ・「Anyアート」のスタンダードの構築・・・柏原の、市民による、市民のための芸術祭
ユニークで、新しく、面白い、みんなが参加したくなる芸術祭に！
柏原らしさ（「Anyアート99」掲載の資産・資源）の探索・更なる発掘・活用
市内の各まちづくりの団体と、連携・連動。地域の特徴をを活かす

② つながるアート：参加アーティストや連携団体・グループとの関係強化

- ・人的関係強化、拡大に向けてネットワークづくり
＜アーティスト・グループ＞＜地域連携団体＞
- ・若年層、学生、児童などの次世代を担うアート人材資源の育成支援
- ・「アーティストNote」づくり：個人・団体を主体に紹介
- ・情報発信：主なアーティストのプロフィール/作品/制作風景、SNS等で発信
- ・アート交流会：定期開催をめざす（例：毎月、四半期など）
- ・ワークショップ、グループとの関係強化。

③ めぐるアート：回遊性の改善 → エリア再考 ⇔ 地域を知る

- ・まち歩きを楽しみながら地域アートの基盤を拡大
- ・「遊び」の感覚を取り入れ、ビンゴ式スタンプラリーなどを導入、レンタル自転車の活用
- ・ポスター、幟などの案内告知サインの設置場所再考と展開拡大

2 パワーアップ (アクション戦略)

→弱点の明確化、機能強化と組織改善

①ブランド戦略の強化：Anyアートをシンボリックに改善

- ・シンボルカラーの設定：ぶどう色
- ・関連グッズの制作：例) Anyアート柄やロゴの手ぬぐいスカーフ、マスク、シール・缶バッチなど
- ・キャラクターの設定：Anyアートのロゴやカラーを連想させるキャラクターを検討
- ・プロモーションアドバイザーによるサポートシステムの整備。

→グッズ販売を含め収益事業等組織のあり方も追究。

②サポーター獲得対策：Anyアートファンづくり

- ・ワークショップやアートめぐりを通じて、ファンを呼び込む
- ・関連グッズや資料の提供で、ファンを開拓、組織化につなげる
- ・Anyアートフォーラムや交流会の開催で人的ネットワークを拡大

③運営体制の強化：事務局の強化と有機的で柔軟な連携

- ・事務局組織の軸と組織整備：事務局役割分担明確化
- ・定例会議の拡大と運営の組織化
- ・財政確立、助成金等の確保：事業化支援組織（一般社団法人化も想定）

（次年度開催に向け、新たな資金源（補助金、助成金）を探す。（D/L:8月）

→Anyアート総会を目処に具体化。

<地域構造>：アートなまちづくり

<前提整理>

会場：柏原駅ゾーンと国分駅ゾーンに分け、それぞれ隔年開催に。(柏原→国分→柏原・・・)

参加形態：グループやインスタレーションにも力点。

物販：販売を伴う出展はアートフェアとして期間や会場を分離、他のマルシェとの連携で対応(をかしわらマルシェ、オガタ通り商店街マルシェなど)

特別出展作家：アドバイザーを核にしたアーティストグループの組織化を目指す出展メリットの創出→制作等助成資金検討

<地域構造>：アートなまちづくり

・柏原駅ゾーンの中心市街地を核に構成：商店街などを繋ぐ軸

→JR柏原駅を中心に、近鉄壱下駅からオガタ通り商店街と大正通り商店街など

<会場案>

・ヤマシデンキ、ふれあい館オガタ、Bed&Bicycle、ノーウェア柏原、アゼリア柏原

JR柏原駅自由通路、駅前ロータリー、長瀬川アクアロード、了意川、大正ポケット、

大正ネスト

→野外の公共空間などを積極的に活用し、アートなまちにつなげる

・周辺：櫻湯、かふえたかい、カタシモワイナリー、ほのほのかたしもなど

<新たな会場候補>

・開発可能性：柏原駅1階空間、商店街他の空き店舗、旧ハローワークなど

・観音寺代替案：仏照寺(本郷)、神社(今町)など

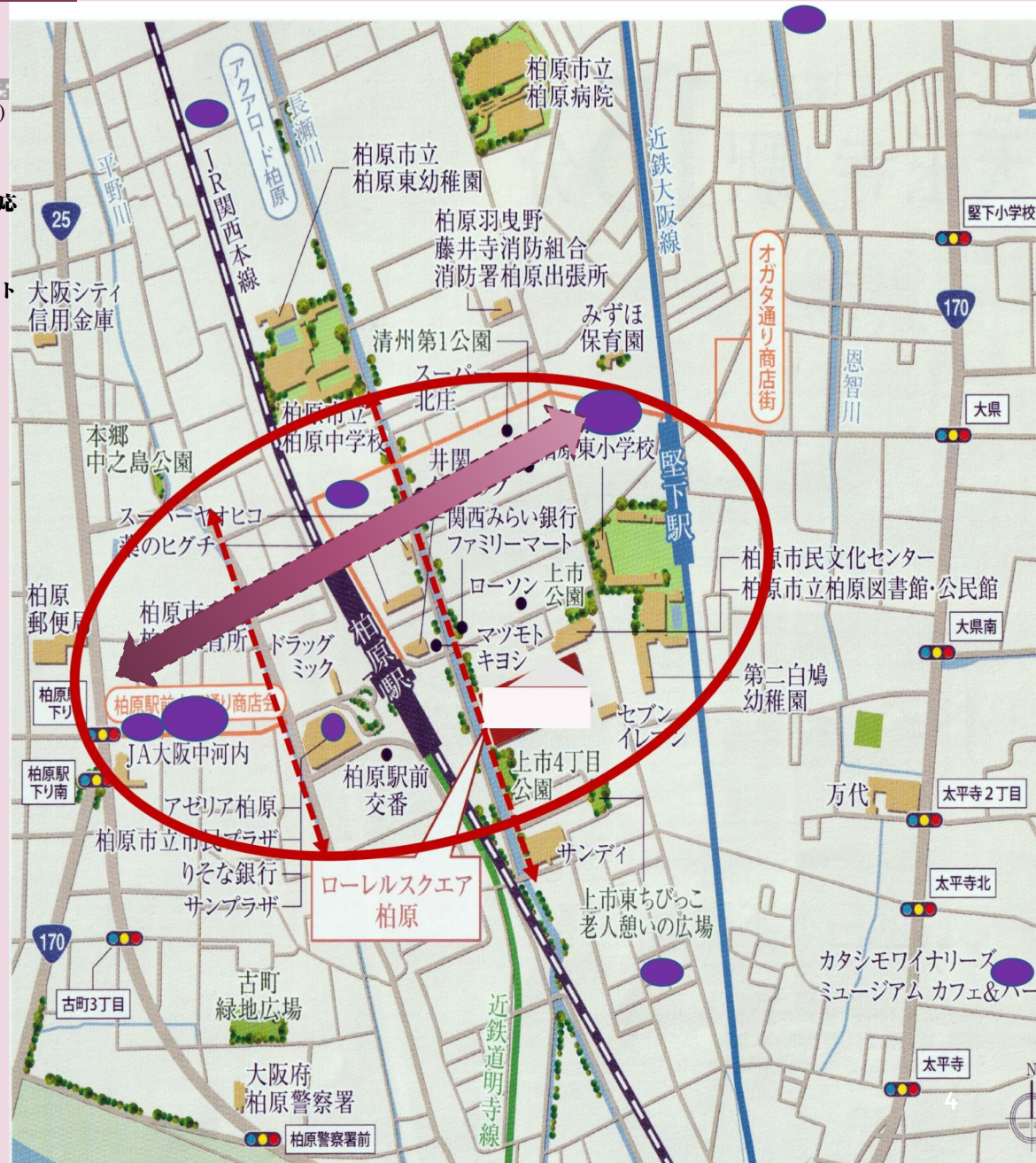
(参考)

国分駅ゾーン：ふれあいステーション国分、問屋場亭、関西福科大、大教大、玉手山公園

→展示スペースの確保・常設展示含む：継続的なアート空間として活用可能性の開拓

→文化センター、公民館、図書館などの公共建物の借用可能期間だけでも活用を検討

→展示設営チームの組織化：搬入搬出含め展示方法の学習



Anyアート

Anyアート：いかす・つながる・めぐるアート

→かしわら芸術祭2021の実績を持続発展

<アーティスト・団体>

- ・森山陽介：新絵画教室Myアート
- ・加藤：教育大「地域とコミュニケーション」
- ・浜本隆司：ビセンG
- ・樋口尚：野外アート
- ・清水一意：
- ・高森景子：他へも広がりフォロー
- ・カプリッチョ/オイルポット
- ・むげん：小西勝
- ・麗光：アトリエ麗光：浅田
- ・もっさんみいこ：工作絵画教室：
- ・茶吉庵組若手：辻笙
- ・安田ゆうこ：
- ・木村静・中浦真一
- ・家近グループ
- ・こうのとりのさゆり
- ・中川かつひこ：櫻湯
- ・木津美幸：
- ・岩本貞泉・書：
- ・松原一彦：
- ・多保義之：
- ・U-KO：
- ・平井互：
- ・清水章禅：和楽：尺八

<地域連携グループ>：担当

- ・くるくる：西村優
- ・わたの日：浜崎
- ・ディサービス連絡会：土井
- ・社協ボランティア連絡会議：小柴
- ・タントタントまちづくり事業部
- ・かしわらイーネット：大村吉昭
- ・茶吉庵：萩原/濱谷

アーティスト・団体との交流ネットワーク強化

AnyArt_Listを作成し、運営委員会として担当者を定め、Anyアート総会を手始めに、次の①②の活動を通じて、つながりを強めネットワーク基盤を固めていく。

①「アーティストNote」づくり：人・団体を主体に

→情報収集整理：主なアーティストのプロフィール/作品/制作風景、SNS等で発信

② アート交流会（例：毎月、四半期）

→地域のワークショップ文化の展開をめざすMAP（(Mirai Art Platform)との連携

→情報収集と連携：下町芸術大学（新長田@神戸）、木津川アートプロジェクトなど